

# 出版会計の課題とその改善策について

理事会出版部門主査理事（出版委員会委員長） 林 康雄

学会から出版する図書については、これまで制作コストの削減や販売促進に努め、出版会計の収支改善に努めてきましたが、近年の図書販売額は毎年減少傾向にあり、出版事業の収支改善が強く求められています。

出版委員会としては、今後とも健全に出版事業を継続していくためには抜本的な対策が必要と考え、検討を重ねた結果、3月19日開催の理事会において下記の改善策の骨子を提案し、承認を得ました。

今後は、この改善策の実施に向けて、関係委員会のご理解とご協力をいただきながら具体化していきたいと考えています。また、今後発行する図書の値上げにつきましても会員の皆様のご理解をいただきますようお願いいたします。

## 出版会計の課題と改善策

この10年間の出版会計収支についてみると、平成13年度のコンクリート標準示方書の大改訂やダイレクトメール等の販売促進強化策による増収努力、および各編集委員会による完全版下原稿化等の制作コスト削減努力により、約53百万円の収支改善を行ってきた（平成8年度～平成18年度）。

一方、単年度ごとにとみると、出版会計はコンクリート標準示方書の収入に大きく依存した収支構造となっており、数年おきの改定サイクルにあわせ、収支が大きく変動している。平成19年度は同書の大改訂が予定され累積赤字の解消をもくろんでいたが、発行が年度末にずれ込んだため、平成19年度決算では当期収支差額▲29百万円、次期繰越収支差額

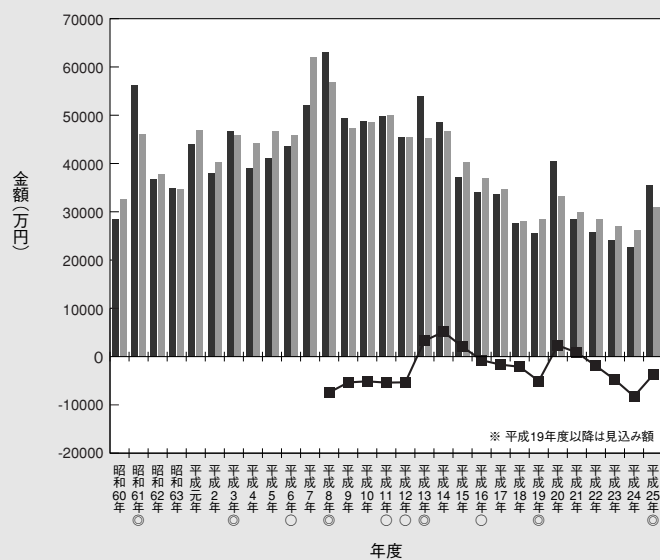
▲51百万円を見込んでいる。

平成20年度は同書の販売が本格化し、累積赤字も一時的に解消される見込みである。しかしながら、近年の土木離れやインターネット普及などによる図書離れにより学会図書の売上も平成13年度以降減少傾向にあり、数年後にはさらに大幅な収支の悪化が懸念される。

出版委員会としては将来にわたり健全な出版事業を継続していくためには、従来になかった抜本的な対策が必要な時期にきていると認識しており、以下の収支改善策の実行を提案する。なお、その具体化にあたっては関係委員会との調整を図り、準備の整ったものから順次実施していきたい。

## 【改善策1】

これまでの出版実績から赤字額の多い特定のシリーズ図書は、編集委員会に対し販売拡大策や



凡例  
 ■ 出版会計全収入(論文集等を含む) ■ 出版会計全支出(論文集等を含む)  
 ■ 前期繰越収支差額(公益法人会計への移行により、平成8年度から計上。これ以前の数字は計算方法が異なるため削除)  
 ○ コンクリート標準示方書(大)改訂年度 ○ コンクリート標準示方書(小)改訂年度

図1 出版会計の推移(改善前)

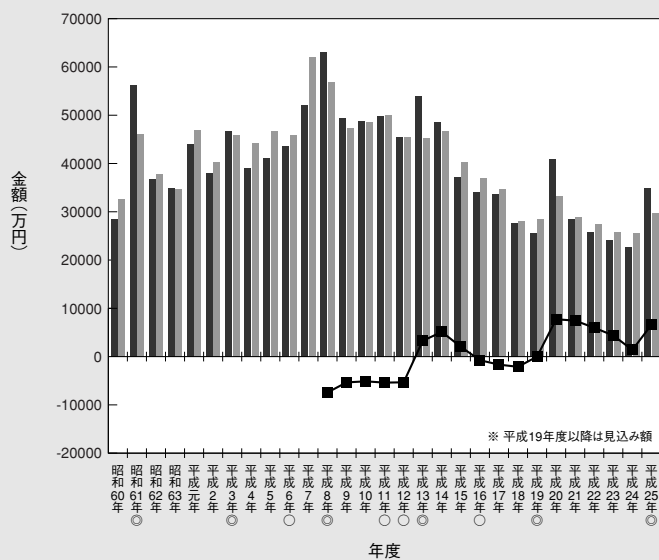


図2 出版会計の推移(改善後)

コスト削減策などの提案を求め、解決策が見出されない場合は出版を見合わせる。

## 【改善策2】

単発の図書は出版企画の段階では売上げの予測が立てにくい  
ため、発行時に編集委員会に対し販売促進策の提案を求めるとともに、出版後も定期的に売上げ状況を当該編集委員会に報告し、赤字の場合は編集委員会としての対応策の提案を求める。

## 【改善策3】

代表的な赤字図書である英文図書は、学会の海外戦略と位置付け、一般会計で買い上げたうえ関係箇所へ無償配布するなど活用する。なお、図書の活用計画の取りまとめは国際部門にお願いしたい。

## 【改善策4】

今後学会から発行する図書の定価を約10%値上げする（定価設定に占める管理費率を現行の70%から90%に引上げ）。

以上の改善策を実施することにより、今後中期的に出版会計の収支均衡を図ることを目指す。  
このため平成19年度決算において累積収支差額▲51百万円（見込み）を一般会計よりの補填によ

り一掃していただき、平成20年度予算より上記改善策に基づく運営方針により、新たなスタートを切ることとしたい。

（注）本稿における平成19年度決算見込み値は、平成20年3月19日理事会提案時点の見込み値であり、決算時点において変更になる可能性があります。

理事会承認 平成20年3月19日

出版部門承認 平成20年3月14日